

「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」
中間評価報告

平成 18 年 8 月 24 日

科学技術・学術審議会、研究計画・評価分科会、情報科学技術委員会

【大型有形・無形文化財の高精度デジタル化ソフトウェアの開発】

研究代表者：松山 隆司 京都大学大学院情報学研究科教授

本課題は、大仏殿などの大型有形文化財および複数人物が複雑な動作を行う無形文化財を高精度に 3 次元デジタル化するためのソフトウェアの開発を目指している。21 世紀の日本の国力をソフトパワーとして発信するための基準となる先進的研究開発が行われており、顕著な成果が認められ、極めて高く評価できる。また、特許の積極的な申請・取得、学術的成果を挙げていることに加えて、新聞 TV 等のマスメディアへの情報発信も多く、研究成果の発信についても極めて高く評価できる。さらに、研究開発が社会的なニーズを発掘する良好な事例といえ、経済的、社会的効果の発展性も十分期待できる。

今後は、新規市場、国際連携等への更なる展開も視野に入れながら引き続き研究開発を行い所期の目標を達成するとともに、プロジェクト終了後には体系化された学術分野や技術を実現し、よりインパクトの強い研究となることを期待する。